

八中2年人権だより

徳島市 八万中学校
2年生 第12号
2023年10月18日
編集・文責 吉成正士

10月13日(金), 1・3年生が遠足に出ている時間を使って, 平和学習の一環として体育館で「さとうきび畑の唄」という, 沖縄地上戦を描いたテレビドラマを視聴しました。

登場人物は, 主人公・幸一(明石家さんま)をはじめとした家族9人です。それぞれが, 沖縄戦に飲み込まれ, 死に追いやられたり, 生死の境をさまよったりします。

観終わったあと, どこからともなく, 「これってホンマにあったことなん?」という声が聞こえてきました。信じられない, 信じたくない, という思いがこぼれたのだと思います。そんな家族があったかどうかは別として, ストーリーの中に出てきた出来事は, すべて事実です。事実をつなぎ合わせた物語です。

このあとの感想をもとに, 11月10日に授業参観で行う学年全体学習に向けて, 自分自身を見つめ直す学習を各教室で進めてみてください。他人事を自分事にしていく学習に取り組んでみてください。

勇気ある行動で人は救われる

■さとうきび畑の唄で出てきた平山家は, 仲が良くて楽しい日常を送っていましたが, 戦争が始まってから家族がバラバラになって二度と会えなくなってしまうということは, とてもつらいことだし, 幸せだった日々がそんなすぐになくなってしまふのだと思いました。

国のために死ぬことはいいことというのが広められているなか, 平山家の人たちは勇気を出して行動していたのがすごいと思いました。その勇気ある行動で人の命が救われていて, 私もそういう行動をしていきたいです。

戦争で良いことなんてないし, 人を不幸にすると書いていて, 本当にそうだなと思いました。今も他の国では戦争が起こったりしているから, まずは周りから意識を変えて行動していくことが大事だと分かりました。

2組TN

勇気ある行動・言動に感動

■私は幸一さん(さんまさん)のたくさんの言葉が胸に刺さりました。

「お母さんやお父さんにもらった命を無駄にしないで, お国のために死んじゃダメなんです」「同じ人間じゃないですか」「人の笑っている顔が好きなんです」「僕は戦争するために生まれてきたんじゃないんです」「いろんな人をこのカメラで撮るのが好きなんです」

とてもその通りだなと思います。戦争は間違っていると分かっていながらも, この家族は必死に戦ってきたんだなと思います。勇気ある行動・言動に感動しました。

幸一さんは, とても家族思いで, 周りの人を勇気づけようと笑わせたり, とてもいい人でした。兵隊になってもずっといい人でいてくれてよかったです。最後に幸一さんの命を殺めた人も, 本当はいい人かもしれないと思いました。戦争中に幸一さんのようないい人はいないと思います。

戦争は人を簡単に変えてしまいます。私は兵隊さんたちのおかげで今があると思います。私は, この大事な命を決してお母さん, お父さんより先に命を絶たないように, 今を大事に生きていきます。 2組YY



誰かのために行動する

■私は「さとうきび畑の唄」を観て, 幸一さんの言葉がすごく心に残りました。「同じ人間だから」という言葉や, 「笑っている顔が好き」など, 誰よりも幸せを願っている人だと思いました。召集令状で隊に入隊したときも, 周りの仲間を笑顔にしていたり, 家族に何度も「大丈夫だよ」という言葉をかけていたり, 誰かのために行動することが, 自分の使命だと思っていたのかなと思います。また, 怪我をしたアメリカ兵を見つけた場面の上官に言った言葉は, 幸一さんの願いが詰まっていてとても感動しました。今日観た映画から, たくさんのことを学ぶことができました。幸一さんの言葉もそうですが, 地上戦のことも学ぶことができて良かったです。 2組MN

自分、家族、友人の命を大切にする行動

■今回, 「さとうきび畑の唄」を観て, 感想発表でもあった通り, 同じ人間というワードが多く出ていたと思います。幸一が最後に, 「殺せない。僕はこんなことをするために生まれたわけじゃない」と言っていたのがとても心に残っていて, 幸一だけでなく, 兵隊として戦った沖縄の人たちや, アメリカ軍の人たち, 戦争に参加しなければならないという運命をたどった人は, みんな同じ気持ちだったんじゃない

いかと思いました。同じ人間で、自分と同じように家族や友人、無事を祈っている大切な人がいて、同じように大切な一つの命なのに、戦争という誰も幸せにならない無価値な争いでお互いの命を削っていつてしまう。そんな戦争を、この先繰り返してはいけないと思います。日常で命について意識して生活したことはなかったけど、まずは自分の命や家族、友人の命を大切にして生活したいと思いました。

2組MH



おかしいことをおかしいと言える行動を

■平和で楽しく暮らしていた平山さん一家が戦争によって離れ離れになる姿がとても悲しかった。また、実際に日本でまた戦争が起こると、自分たち家族もあんなふうバラバラになってしまうのかと思うと怖かった。普通に暮らしていただけなのに、戦場で人が殺されるのを見たり、逆に殺したり、天皇陛下のために死ぬことを選んだり、人を変えてしまう戦争は恐ろしいと思った。

私はドラマの中に何度も出てきた「同じ人間」という台詞がとても心に残った。アメリカ兵も日本も沖縄の人、本気で人を殺してやりたいと思って戦争に参加している人はいないのに、国同士の事情で何人もの人が死ぬのはおかしいと思った。平山家一人一人が生きるために勇気を出して立ち上がったように、私たちも普段からおかしいことは、おかしいと自分の意見を言える勇気を持つことが大事だと発表を聞いて思った。「同じ人間」なら、勇気と相手を思いやる心があれば、戦争をなくすことができるかもしれないと思う。私は今日学んだことを思い出して、自分の生活を見直していきたい。

4組KN

正しいことを誠実に行動できる人間に

■命を大切にして生き抜くこと、命があるから笑顔ができる。「生きて、生きて、人生を楽しむことの大切さ」「命とは」を改めて実感できたと思います。戦争で同じ人間同士なのに傷つけ合うところや、家族の幸せがどんどん奪われていくところはおかし、もし自分がその場にいると思うと、胸が引きちぎられるような思いになります。特に自ら

命を絶とうとしているのがとても苦しく、海に次々と人が飛び込んだり、勇が爆弾をもって一人で突撃していくのは、「その行為はしないで！それは間違っている！」と強い気持ちでずっと見ていました。せっかく親に育てられ、愛情を注がれたこの命はいつまでも豊かに育てたい。そして間違っているところは違ふと判断でき、正しいことを誠実にできる人間になりたいと思った。

さんまさんの「大丈夫」は自分の不安を紛らわし、周りを安心させていました。自分もこのような気持ちで言ったことがあります。でもそのときは、自分も周りも苦しい状況でした。だから、無理矢理安心させる「大丈夫」は、もう聞かないようにしたいと思いました。相手を心配し、気遣う「大丈夫？」を言いたいです。そのためにも、自分から行動し、こんな状況をつくらないようにしたいです。

4組SH

声を上げる行動が差別されない日常

■戦争が起きてない今は、戦争のことを非難できるけど、戦争をしていた当時はおかしいと思って声に出せなかった人がたくさんいたと思うと、心が苦しくなりました。戦争を非難するものは「非国民」やら「臆病者」などというカテゴリーをつけて差別することがなければ、声を上げられた人がいたかもしれないのです。これは私たちの日常でも起こりうることだと思いました。日常でも声を上げた人が差別されてしまう雰囲気をつくらないことが大切です。

戦争は関わった人すべてを不幸にする最大の凶器です。一度日本で起きてしまった戦争をもう二度と私たちが起こさせないことが、戦死してしまった人への報いだと思います。起こさせないために、日ごろの行動を振り返って、自分を見つめ直したいと思います。

4組MC

手を挙げるという行動で身につける

■私は、「さとうきび畑の唄」を観て、すごくつらかったです。私も家族がもしあんな状況になって亡くなってしまったらと思うと、涙が止まりませんでした。主人公の人は大丈夫じゃないときも、「大丈夫」、家族と会ってなくても「会った」と嘘をついていました。私はあんなに優しい嘘は初めて聞きました。私があんな状況なら、「人を安心してあげよう」というような余裕は持てないと思います。すごく尊敬します。

戦争は、私の家族、友達、みんなの笑顔をなくします。そんなものは本当に繰り返してはいけないと改めて強く思いました。発表してくれた人の中で、「ダメなことをあの状況の中でダメと言えるのはすごい、強い」と言っていました。私も勇気がないと無理だと思いました。私はその勇気を、これからある人権発表会や授業で手を挙げることで身につけたいです。これからもずっと笑おうと思いました。

5組ON